

森林インストラクターの森活動報告(ヒノキ人工林の間伐作業)

期 日：2021年12月12日(日)

参加者：8名(池田、近江、田崎、辰尾、星野、森永、横山、芳野)

報告者：森永

冬季12月のもりづくりは、幸い快晴で風もない穏やかな天候に恵まれ、参加8名にての作業となりました。冬枯れの進む樹林の林床には、マンリョウやヤブコウジの赤い実もみられます(その割には写真なくてすみません)。

前回に引き続き、過密化したヒノキ人工林での間伐を行いました、今回もいわゆる「かかり木」に苦しみました。かかり木は、伐採した木が周辺の立木に倒れかかってしま



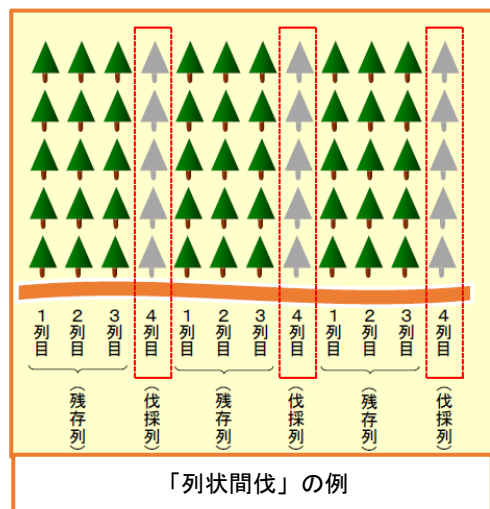
「かかり木」の状態

い、木の先端が地上まで落ちてこない状態です。こうなると、いつ木が倒れてくるか分かりませんので間伐作業を一時中断しなくてはならず、さらに、今回はかかり木を再度倒す処理にも長い時間がかかってしまいました。

かかり木が発生してしまう直接の原因は、とにかくヒノキが過密化しているため(その状況を改善するための間伐なのですが)、どうしても確実に倒せる伐倒方向が限られることが挙げられます。また、ときがわに植栽しているヒノキは、樹種の材質として幹や枝が柔軟性に優れ容易に折れないこと、樹冠部の枝が密なことから、結果的に倒れにくくなることも要因のひとつで、かかり木への対処が間伐作業の大きな課題と感じます。

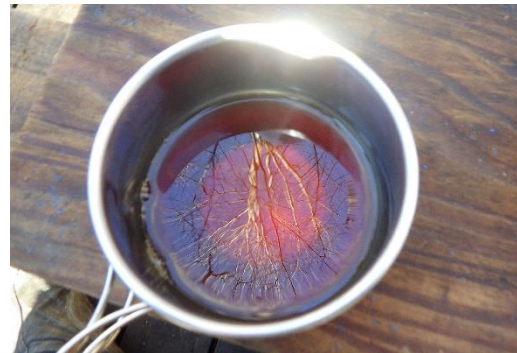
現状では、対象木を個別に選んで伐採する間伐を行っていますが、間伐に関する資料をみると、「列状間伐」と呼ばれる間伐のスタイルがあり、植栽列ごとに伐採を行うこの列状間伐のメリットのひとつに、かかり木の発生が少ないことが挙げられています。斜面の下方側から上方へ列状に伐採を進めることで(その場合には通常と異なり、下方の谷側へ伐り倒す)、次の対象木を倒す空間が連続的に確保され、かかり木となりにくい状況での作業が可能となるようです。

今後、さらに既往の資料等を検討し、この列状間伐の実施を試みてみたいところです。あと、間伐の効果をドローン撮影で確認なんかもやってみてほしいですね。もし、ドローンをお持ちで、飛ばしてもいいよという方がいらっしゃいましたら、ご協力をお願いしたいです。冬季は天気も安定して、対岸の道路側からも樹林上空の見通しも良くなるので、空撮には適期かと思います。



苦勞をした作業の後、ウッドデッキでの昼食と
コーヒータイムは、いつも以上に冬の陽だまり感
が濃厚で、やっぱりアウトドアは悪くないと思
わせてくれるひとときでした。

今年はときがわにてもう一回 12/26 のもりづ
くり活動が残っていますので、参加される方はぜ
ひ暖かい服装とマイカップ持参で、ご参集下さ
い。



【引用参考】

かかり木の写真：きこりやろうHP <https://keiix.net/>

列状間伐の手引き：林野庁整備課(2019)

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kanbatu/houkokusho/attach/pdf/houkoku-3.pdf>

なお、番外編になりますが、現地から集合場所への帰路の途中、芳野さんが名産のユズ
を購入されるとのことで、ときがわ町の施設である建具会館を教えてもらいました。他の
メンバーはご存じの方も多いかもかもしれませんが、同乗していた私と田崎さんは初見のため、
木工品や地場産の野菜などを愛でて、新たなときがわ訪問スポットを覚えさせてもら
いました。参考までに、同施設の URL を下記しておきますので、興味のある方はご覧にな
って下さい。

ときがわ町建具会館 <https://www.town.tokigawa.lg.jp/info/21>

